

森林づくりタウンミーティングの
結果について

令和 2 年 4 月
福島県農林水産部

もり 森林づくりタウンミーティングの開催結果について

1 開催目的

福島県森林環境税の現行制度が令和2年度に満了することから、森林環境税のこれまでの取組や成果を広く周知し、第4期対策に向けた意見や要望等を直接いただく、タウンミーティングを開催した。

2 開催結果概要

- (1) 令和元年10月24日から11月19日まで、以下のとおり県内8地区で開催した。
- (2) 参加者は309名。
- (3) 参加者からは56件の意見、要望が出された。
- (4) 森林環境税について継続を求める意見、要望が多数あり、廃止を求めるものはなかった。
- (5) 森林環境教育の更なる実施や、内容充実を求める意見要望も多数あった。

3 開催内容

- (1) 実施地区 県内8地区
- (2) 開催時間 1時間30分程度（説明1時間、意見交換30分程度）
- (3) 参加者数 合計 309名（H26実施時は364名）

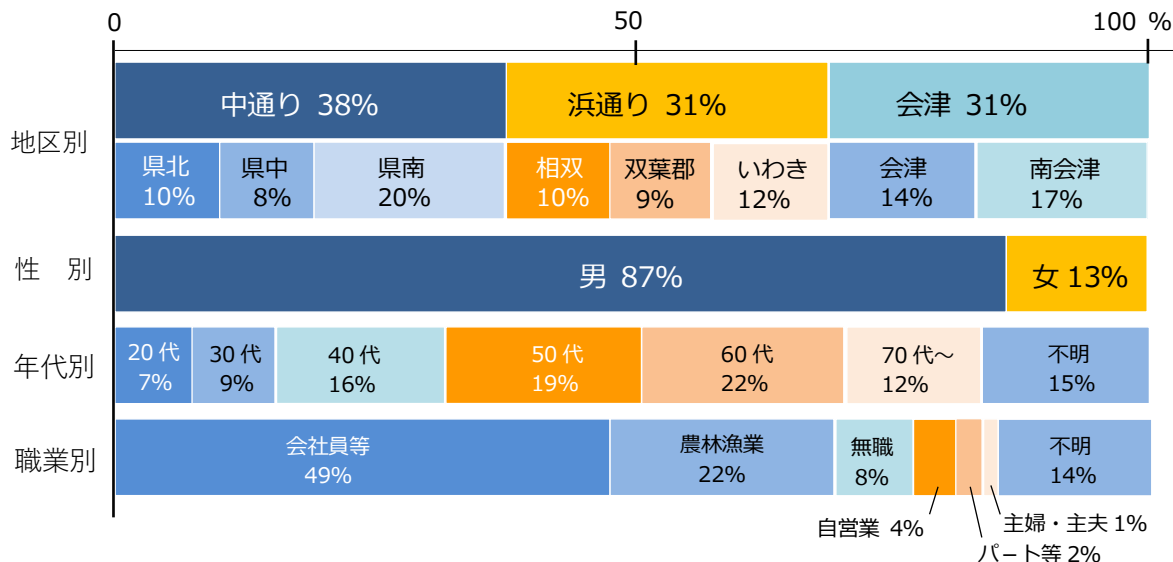
開催地区	開催概要 [森林の未来を考える懇談会委員]	参加者数
県北	令和元年10月24日(木) 19:00~20:30 [沼田大輔氏・薄井浩氏] 福島県青少年会館 第1研修室 (福島市)	30名
県中	令和元年11月19日(火) 19:00~20:30 福島県郡山合同庁舎 仮設庁舎第1会議室 (郡山市)	24名
県南	令和元年11月11日(月) 15:30~17:00 [橋口直幸氏] 新富家 (棚倉町)	63名
会津	令和元年10月30日(水) 18:00~19:30 [目黒照枝氏] 会津若松市北会津支所 (会津若松市)	42名
南会津	令和元年10月28日(月) 19:00~20:30 [星きみえ氏] 御蔵入交流館 多目的ホール (南会津町)	54名
相双※	令和元年11月7日(木) 19:00~20:30 [大堀武氏・唯木常晴氏] 南相馬市労働福祉会館 第二会議室 (南相馬市) ※双葉郡を除く相双地区	30名
双葉郡	令和元年11月5日(火) 19:00~20:30 ならは CANvas 多目的ホール (楡葉町)	28名
いわき	令和元年11月13日(水) 19:00~20:30 [橋口直幸氏] 福島県いわき合同庁舎 4階大会議室 (いわき市)	38名



4 参加者の構成

- ・地区別割合は、3地方とも同程度の参加者人数となり、地方別では、中通り地方では台風19号による影響で参加者の偏りがみられた。
- ・性別では男性が大多数を占め、年代別では、40代から60代が多かった。
- ・職業別では、会社員等が多く、次いで農林漁業であった。

図-1 参加者の構成

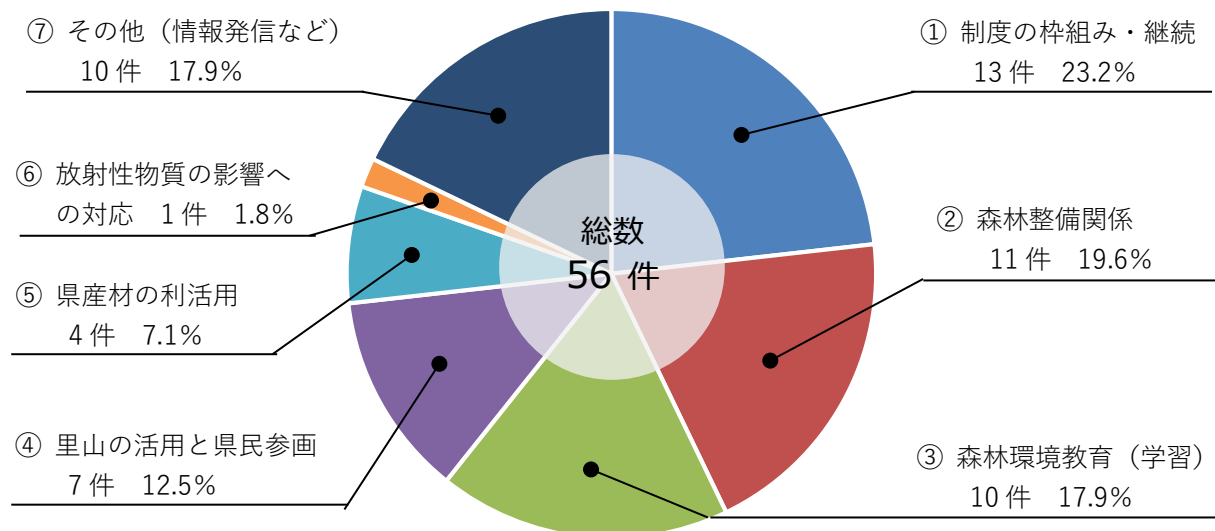


5 タウンミーティングの結果

(1) タウンミーティングにおける意見等（内容別要約）

- 森林環境税について、継続の要望が多数あり、継続反対の意見はなかった。
- 災害防止のための森林整備の推進や、皆伐後の再造林支援の要望が多数あった。
- 学校が継続して取り組める森林環境教育のカリキュラムの提供や予算的支援の要望があった。
- 里山林整備の継続要望や、県民参画による植樹活動が必要であるとの意見があった。
- 木材搬出コスト低減のための路網整備、地域材を活用した木育への支援要望があった。
- 森林環境税の認知度を高めるために周知すべきとの意見もあった。

図-2 意見・要望等の内容別割合



(2) 主な意見

① 制度の枠組み・継続

- ・子供たちの将来を考え、森林環境教育への交付金割合を4割に増やして欲しい。
- ・4期も5期も継続して欲しい。課税額は2000円/年に増額しても良い。
- ・第4期でも水源地域をしっかりと支援できる制度にして欲しい。

② 森林整備関係

- ・自然災害に対する予防の観点から森林整備を推進する必要がある。
- ・森林整備事業で間伐を実施した森林は、再度、対象とはならない。この制限が足かせとなっている。見直し要望。広葉樹林の更新も対象にして欲しい。
- ・間伐が進んでいるが皆伐跡地の植栽がされていない。森林環境税の事業でしっかり植栽して欲しい。

③ 森林環境教育

- ・小学校の6年間継続して取り組める森林環境教育の一貫したプログラムがない。また、学生が林業を学ぶ機会もない。プログラムの提供を要望する。
- ・学校では森林環境教育の予算もカリキュラムも不足。指導者育成が現場で生かされていない。子供たちがもっと山の中に入れるような環境・制度作りを要望する。
- ・森林環境学習は次世代を担う子供たちに森林の大切さや木を使う楽しさを伝える有意義な取組。交付金の森林環境学習への配分を市町村に依頼して欲しい。
- ・小学校では環境への注目度が高まっている。総合的な学習の時間などで実施するが、人とお金が必要。森の案内人等による体験活動への県税の活用を要望する。

④ 里山の活用と県民参画

- ・里山整備を行っているのは高齢者。若者を森林へ誘導するよう多様なニーズに対応して欲しい。
- ・荒れた民有林が有害鳥獣の巣にならないよう対策が必要である。
- ・木を植えて育てる取組を継続し、地域ごとの良い活動や森林を増やして欲しい。

⑤ 県産材の利活用

- ・農道に比べ林道は整備されておらず、搬出コストが嵩む。森林整備のための基幹道路として整備して欲しい。
- ・木材利用が進んでいるが機能性も大切。用途に合った木材利用について、適した木を使用できるように先進国の事例を導入してはどうか。
- ・地元産の木材を使って建物を作り、家具なども木製にし「木育」の活動を森林環境税で支援して欲しい。

⑥ 放射性物質の影響への対応

- ・子供たちが山で遊べるよう里山の除染に取り組んで欲しい。

⑦ その他（情報発信など）

- ・森林環境税の認知度が低い。もっと関心を持ってもらうよう周知すべき。
- ・炭焼きの担い手が高齢化。炭焼き文化が残るよう支援して欲しい。
- ・「親子で楽しめる森」など、地域ごとにモデルケースを作り意識の醸成に向けて発信してはどうか。